

祝・受賞！！

- ◆ 朝日がん大賞…… 樋野興夫先生（順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授）
- ◆ 日本対がん協会賞（団体）……がん哲学外来メディカルカフェ「どあらっこ」

くろろいだ表情で患者や家族の話に耳を傾ける、順天堂大教授の樋野興夫さん（東京都内）



「哲学外来」で癒やす



「今日はどこから来たの？」
東京都内の教会で、8月中旬にあった「がん哲学外来」。

「コーヒーにミルクを入れたら樋野さんが尋ねると、患者は話し始めた。がんとわかったときのショック、自身の気持ちの落ち込み……。白衣は着ない、カルテもない。病気に悩む人、大学病院や喫茶店など様々な場所で聞き、約3千人の患者や家族らと対話してきた。薬を処方する代わりに出すのは、「言葉の処方箋」。「八方ふさがりでも天は開いてる」「やるだけのこと心配する。ほっとけ症候群」。目の前の人が自身の人生と向き合えるよう、言葉をかける。語録は、学生時代から愛読する政治学者や経済学者らの著作から引用もする。

アスベスト（石綿）が原因の中皮腫患者を専門に診る外来を担当していた16年。治らないと悩む人の思いを受け止め、主治医と患者の隙間を埋める役割が必要なのではないかと

朝日がん大賞の病理医・樋野さん

生涯のうち2人に1人がなるがん。患者やその家族の悩みを聴き、心の痛みを寄り添う「がん哲学外来」を続ける病理医で順天堂大教授の樋野興夫さん（64）が、日本対がん協会の朝日がん大賞に選ばれた。賛同者は増え、活動は全国に広がる。その一つ、名古屋の高校生は協会賞を受賞する。

心の痛みに処方する言葉たち 全国に広がり



どあらっこ（左から）寺尾拓己さん、中村航大さん、彦田栄和さん、同級生の弓削響輔さんと4人でカフェを運営する。中村さん以外の3人の母親は乳がん経験者を名古屋市区

当事者だから伝えられる

08年、順天堂病院で5日間限定で哲学外来を開くと、予約でいっぱいになり、病院外にも向かうようになった。

島根県の無医村で生まれた。幼い頃は体が弱く、母親に背負われ隣村の診療所まで通った記憶が医師になった原点だ。しかしなまりがきつく、人と話すのは苦手だからと病理医になった。

患者の相談内容は、病状や治療の悩みが3分の1、あとは家族を中心とした人間関係の悩みという。この10年間で、職場で異動を余儀なくされたなど仕事の悩みは少なくなってきた。だが、心配しすぎとか冷たいと

いつた、主に家族に不満を抱く人間関係の悩みは減らないという。そんな相談には「患者を支えようとか、互いに何かをしてあげようかと思わず、そばに寄り添うだけでいい。相手の必要に共感することが大事」と答える。

樋野さんの活動に賛同した医師や看護師らが集まり、患者や家族と語り合う活動も広がっている。敷居は高くなく、お茶でも飲みながらという趣旨で「メディカルカフェ」と名付けた。現在、全国のクリニックや教会合わせて約150カ所で開催されている。カフェを企画・運営するコーディネーターの養成講座も11年に始まり、これまでに80人が誕生しているという。

日本対がん協会賞・団体の部の高校生

団体の部で日本対がん協会賞を受賞するのは、名古屋市の高校生4人が中心で運営するメディカルカフェ「どあらっこ」だ。代表の中村航大さん（16）は小学2年の時に脳腫瘍が見つかり、16年に再発。リハビリテーションをしていた頃、樋野さんと出会った。後に、一緒にカフェを運営することになる幼なじみの彦田栄和さん（16）の母親がメディカルカフェを開いていたことが縁だ。

「やってみたい」と樋野さんから提案され、中村さんは「自分の経験が役立てば」と「はい」と返事をしていた。

彦田さんやクラスメートの弓削響輔さん（16）も賛同。入院中だった中村さんに代わり、場所の確保やチラシ作りなどの準備に駆け回った。

中学2年だった17年2月、名古屋市内の診療所の一角を借りて初のカフェを開いた。お茶やお菓子は小遣いで買った。高校進学後には寺尾拓己さん（16）も加わった。

若い世代にもがんについて知ってほしい、と8月には20歳以下を対象に「学ぶ会」を初めて開くと、小学生ら6人が参加した。参加後に「がんについて知らない子が多い」と自由研究のテーマにした小学生もいる。中村さんは「興味を持ってくれる人がいてうれしかった」と話す。

小学校での講演活動も始めた。質問タイムで「なんでそんなに元気なんですか?」と問われ、「考え込まないことが自分の個性だと思う」と答えた。「がんを経験して再発しても、こんなに元気なんだよ」と治療している人も知ってほしいと思う」（弓削響輔）



“どあらっこ君”たちから届いたメッセージ

- ◆ 僕の病気の経験を生かすことができるこのどあらっこの活動を続けて行く事で、多くの人に笑顔になってもらいたいと思っています。次は、朝日がん大賞を目指します！！（代表・中村 航大）
- ◆ 現在ではメンバーが7人に増え、新しく“がん教育を考える会”を立ち上げるなど、どあらっこは成長途中です。日本対がん協会賞受賞を弾みにこれからも頑張ります！（彦田 栄和）
- ◆ まだまだ1人で抱え込んだり、辛い思いをしていたりしている人がいると思うので、この活動を続け、少しでも楽になれる場所、心の拠り所を提供し続けていきたいです。（弓削 響輔）
- ◆ 今回日本対がん協会賞を頂き、身が引き締まる思いです。メンバーのサポートが僕の仕事だと思っているので、その役割をしっかりと果たして行こうと思います。（寺尾 拓己）

第五回！中学生が立ち上げる！

【がん哲学外来 参加費 無料！！】

メディカルカフェどあらっこ

[12月26日]
[午後2時～4時]
[東新町郵便局]

名古屋市中区新栄町3-1-2

がん哲学メディカルカフェって？

がんを告知された人とそのまわりの人たちは、それまでとは全く違った意識に襲われるものです。まわりは当然気を遣いますが、告知された人はそれを重荷に感じ、それを嫌がり、やがて自分の居場所を見失うことがあります。

メディカルカフェには、サバイバー（闘病中の人と経験者）も含め、多くの理解者がいます。思いを共感し受け止めてくれる場所、それがメディカルカフェなのです。みんなで生きること考えましょう。

中高生の参加大募集！！

[お問い合わせ・申し込み先] doarakko0211@yahoo.co.jp
[後援] 一般社団法人がん哲学外来